

★ ナシの黒星病 情報 ★

ナシについて、昨年夏から秋の調査において黒星病の発生が多くなっています。

多発する可能性があるため、防除対策をとってください。

発生状況等

- (1) 昨年の7月中旬から10月中旬に行ったナシ黒星病発生状況調査において、全期間通して平年比多い発生でした（表1）。
- (2) 向こう一か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されており、伝染源となる芽基部りん片や被害落葉からの胞子飛散時期が早まるため、葉や果実での発生が増えるおそれがあります。

令和3年のナシほ場における黒星病発生状況

調査時期	7月中旬		8月中旬		9月中旬		10月中旬	
	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
発病葉率 (%)	7.0	2.3	5.4	1.8	11.6	2.5	5.4	1.8
発生ほ場率 (%)	60.0	37.3	80.0	28.5	100.0	30.5	40.0	33.2
発生状況	平年比多い		平年比多い		平年比多い		平年比多い	



写真1 ナシ葉の黒星病病斑（右下は葉裏）



写真2 ナシ幼果での黒星病病斑

防除上の注意事項

- (1) 落葉および芽基部病斑が伝染源となります。
- (2) 芽基部に病斑が生じた果そうは伝染源となるため、園地内をこまめに見回り、見つけしだい切り取って、園外に持ち出すなど適切に処分してください。罹病部は鱗片が脱落せずに付着していることが多いです。
- (3) 満開10日後やそれ以降の定期的な薬剤散布が重要です。防除薬剤散布の際は、対象樹以外への飛散を防止しつつ、徒長枝の先まで全体に薬剤が掛かるように散布してください。
- (4) 前年秋の発生が多いと、翌春の発生が多くなる傾向があります。昨年発生が多かった園では、定期的に薬剤散布を行いましょう。
- (5) 防除薬剤を使用する際は、使用基準を厳守してください。
- (6) 窒素過多になると発病しやすいので、多発園では施肥量に注意してください。

表2 「なし」で黒星病に登録のある主な農薬

FRAC コード※	薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	同一成分を含む農薬の 総使用回数
M01	キノドーフロアブル	1000倍	200～700ℓ/10a	収穫3日前まで	9回以内	散布	12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)
M03	チオノックフロアブル	500倍	200～700ℓ/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	5回以内(但し、休眠期は3回以内)
3	オンリーワンフロアブル	2000～4000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
3	スコア顆粒水和剤	2000～4000倍	200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
M07	ベルコートフロアブル	1500倍	200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	5回以内(但し、塗布液は2回以内、液剤は1回以内)
9	ユニックス顆粒水和剤47	2000倍	200～700ℓ/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
11	ストロビードライフロアブル	3000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

※FRACコード…殺菌剤コード。殺菌剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

※各薬剤の登録内容は令和4年4月20日現在のものである。

農薬の使用に当たっては、最新の使用方法や注意事項を必ず確認すること。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意すること。